



第33回定期委員会を開催！！

二〇二一年十二月二十七日に新橋交通ビル地下会議室において定期委員会を開催し、一年間の方針が決定される

コロナ感染者が減少する中で、全ての地協が出席をして2年ぶりとなる定期委員会を開催しました。

定期委員会は構成員・委員33名中29名の出席、委任状4通での委員会成立のもと東京地協の清水委員を委員長・議長に選出をし、丸谷議長・東日本本部武田書記長・工務協全国連絡会湯浅議長より挨拶をいただき、打越事務長より経過・方針・決算・予算の提起を受けて討論にはいりました。

委員発言

団体交渉にて変革2007で5項目を会社側へ要求してきた。昨年12月27日、除雪後にMCが脱輪、30センチの積雪でクロッシング部では脱輪という情報、県境を越えての復旧作業となつたが問題、事故情報とならず、うやむやとした会社を追求した。職場要求が多く、社員を巻き込んで議論がされ、結果として派出ができた。(仙台) 仕事・安全総点検で6月10日に支社団交を開催、モニタリングをはじめ8項目で交渉してきた。要員関係では必要な要員は確保していると会社の回答は終始、組合からは現状維持を要求、昨年12月から総務科が無くなる。3年間で8名減となっている。組合員の年齢も高くなり多変だが頑張っていきたい。(東京) 今年の4月に定期委員会を開催してきた。盛岡は地域分会

となり全系統での組織となり取り組みが大変である。職場の現状は退職者が出ても補充はされず、仕事は3倍となっている。エルダー社員の手当改善が必要である。銅テルポンドが脱落していた、システム化で現場を見る目が失われている。労働組合に加入をしたことがない若手社員4名が若年退職している。(盛岡) 拠点配置体制見直しで会社の説明は1名体制となる。今まではパートナー会社が見張り員となっていたがひとりでは現場に行けない。会社は当番科長へ連絡をして保安体制ができてからでかまわないと言っている。冬期体制問題では会社は常駐体制をとらない、待機保障を支払うことが多いという理由。平成採用者の国労が主務・主任含め5名いるが今後は管理者となるとなかなか組活活動も難しい。(高崎) 赤字を理由に地区指が各系統を集めて除草をしている。水戸線ではモニタリングの画像が取得できず、直轄にて夜間に除草薬散布を実施。認定線区では台風による対応にてJR・P社



の社員が奔走する事態となった。東鉄水戸では2現場「SWM T」「PCマクラギ交換」を線路閉鎖責任者一人(軌工管3人)で実施したが安全マネジメント問題ありの施工。若手中堅社員の退職が続いている。(水戸) 5月からエルダー・出向となった。9月は17回の夜勤、プロパーは23回の夜勤をしている。プロパーは休日も夜勤がある。不満はあるがJRの若手と一緒にやらざるを得ないという状況。職場は休憩室・ロッカー室・洗濯機もない。JRの判断ミスが多い、技術継承が大切である。秋田はひとりなので仲間と議論する場もない。工務と電気が一緒になったほうが良いと思う。(秋田) 北陸新幹線の

トンネル内で張り出し事故、草刈りで列車を止める、飯山線でBHが分岐器上で脱輪、軌陸ダンプが踏切で脱輪と事故が続いている。(長野) 以上、7名の委員より発言がありました。

「丸谷議長集約」

技術継承が不足している、コストダウンが進められ宿直者も一人にさせられている。職場で若手も疑問を持っているが関わり切れていない、どう解消していくかが重要、職場に戻つて是非とも取り組みの強化をお願いしたい。



【新役員】

議長 出羽正則 (水戸)
事務長 清水秀里 (東京)

【退任】

議長 丸谷豊美 (仙台)
事務長 打越定雄 (東京)